

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年12月14日(2017.12.14)

【公表番号】特表2016-535049(P2016-535049A)

【公表日】平成28年11月10日(2016.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2016-063

【出願番号】特願2016-527342(P2016-527342)

【国際特許分類】

C 07 D	519/00	(2006.01)
A 61 K	31/4545	(2006.01)
A 61 K	31/437	(2006.01)
A 61 K	31/5377	(2006.01)
A 61 K	45/00	(2006.01)
A 61 P	43/00	(2006.01)
A 61 P	3/00	(2006.01)
A 61 P	3/10	(2006.01)
A 61 P	3/04	(2006.01)
A 61 P	9/00	(2006.01)
A 61 P	3/06	(2006.01)

【F I】

C 07 D	519/00	3 0 1
C 07 D	519/00	C S P
A 61 K	31/4545	
A 61 K	31/437	
A 61 K	31/5377	
A 61 K	45/00	
A 61 P	43/00	1 1 1
A 61 P	3/00	
A 61 P	3/10	
A 61 P	3/04	
A 61 P	9/00	
A 61 P	3/06	
A 61 P	43/00	1 2 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年10月26日(2017.10.26)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

Z:

Z-G1:

基Zは先に定義された群Z-G1から選ばれることが好ましい。

Z-G1a:

実施態様Z-G1aによれば、基Zが( $R^N R^{N'}$ ) $N-C(O)-O-$ であり、式中、 $R^N$ 及び $R^{N'}$ がZ-G1に記載のとおりに定義される。

Z-G1b:

実施態様Z-G1b によれば、基Z が $R^O-O-C(O)-N(R^{N''})-$  であり、式中、 $R^O$  及び $R^{N''}$  がZ-G1に記載のとおりに定義される。

Z-G2a:

実施態様Z-G2a によれば、基Z が $(R^NR^{N'})N-C(O)-O-$  であり、

式中、 $R^N$  及び $R^{N'}$  が独立にH、 $C_{1-4}$ -アルキル、 $C_{3-6}$ -シクロアルキル、テトラヒドロフラニル、テトラヒドロフラニル- $CH_2$ -、テトラヒドロピラニル、テトラヒドロピラニル- $CH_2$ -、ピロリジニル、ピロリジニル- $CH_2$ -、ピペリジニル、ピペリジニル- $CH_2$ -から選ばれ、但し、 $R^N$  及び $R^{N'}$  の一つのみがHを表すことを条件とし、

あらゆる $C_{1-4}$ -アルキル基、 $C_{3-6}$ -シクロアルキル基、テトラヒドロフラニル基、テトラヒドロフラニル- $CH_2$ -基、テトラヒドロピラニル基、テトラヒドロピラニル- $CH_2$ -基、ピロリジニル基、ピロリジニル- $CH_2$ -基、ピペリジニル基、及びピペリジニル- $CH_2$ -基が必要により $H_3C-O-$ 、 $(H_3C)_2N-$ 、 $HO_2C-$ 、 $H_3C-C(O)-$ 、又は $H_3C-S(O)_2-$ で置換されていてもよく、又は

基 $R^N(R^{N'})N$  がアゼチジニル-基、ピロリジニル-基、ピペリジニル-基、モルホリニル-基、チオモルホリニル-基、又はS,S-ジオキソモルホリニル-基を形成し、

前記アゼチジニル-基、ピロリジニル-基、又はピペリジニル-基が必要により $H_3C-$ 、 $H_5C_2-$ 、シクロプロピル、 $H_3C-C(O)-$ 、又は $H_3C-S(O)_2-$ で置換されていてもよい。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0021

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0021】

Z-G2b:

実施態様Z-G2b によれば、基Z が $R^O-O-C(O)-N(R^{N''})-$  であり、

式中、 $R^O$  が $C_{2-4}$ -アルキル、 $C_{3-6}$ -シクロアルキル、テトラヒドロフラニル、テトラヒドロフラニル- $CH_2$ -、テトラヒドロピラニル、テトラヒドロピラニル- $CH_2$ -、ピロリジニル、ピロリジニル- $CH_2$ -、ピペリジニル、及びピペリジニル- $CH_2$ -から選ばれ、

あらゆる $C_{2-4}$ -アルキル基、 $C_{3-6}$ -シクロアルキル基、テトラヒドロフラニル基、テトラヒドロフラニル- $CH_2$ -基、テトラヒドロピラニル基、テトラヒドロピラニル- $CH_2$ -基、ピロリジニル基、ピロリジニル- $CH_2$ -基、ピペリジニル基、及びピペリジニル- $CH_2$ -基が必要により $H_3C-O-$ 、 $(H_3C)_2N-$ 、 $HO_2C-$ 、 $H_3C-C(O)-$ 、又は $H_3C-S(O)_2-$ で置換されていてもよく、かつ

$R^{N''}$  がH、 $H_3C-$ 、 $H_5C_2-$ 、及びシクロプロピルから選ばれる。

Z-G3a:

実施態様Z-G3a によれば、基Z が $(R^NR^{N'})N-C(O)-O-$  であり、

式中、 $R^N$  及び $R^{N'}$  が独立にH、 $H_3C-$ 、 $H_5C_2-$ 、 $H_3C-(CH_2)_2-$ 、 $(H_3C)_2CH-$ 、 $H_3C-(CH_2)_3-$ 、 $(H_3C)_2CH-CH_2-$ 、 $(H_3C)_3C-$ 、 $H_3CO-(CH_2)_2-$ 、 $(H_3C)_2N-(CH_2)_2-$ 、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、テトラヒドロフラニル、テトラヒドロピラニル、ピロリジニル、及びピペリジニルから選ばれ、但し、 $R^N$  及び $R^{N'}$  の一つのみがHを表すことを条件とし、

あらゆるシクロブチル基、シクロペンチル基及びシクロヘキシル基が必要により $H_3C-$ 、 $H_3C-O-$ 、及び $(H_3C)_2N-$ から独立に選ばれた1個又は2個の基で置換されていてもよく、かつ

あらゆるピロリジニル基及びピペリジニル基が必要により $H_3C-$ 、 $H_3C-C(O)-$ 、又は $H_3C-S(O)_2-$ で置換されていてもよく、又は

基 $R^N(R^{N'})N$  がアゼチジニル基、ピロリジニル基、又はピペリジニル基、モルホリニル基を形成し、

前記アゼチジニル基、ピロリジニル基、又はピペリジニル基が必要により $H_3C-$ 、 $H_5C_2-$ 、シクロプロピル、 $H_3C-C(O)-$ 、又は $H_3C-S(O)_2-$ で置換されていてもよい。

## 【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

Z-G3b:

実施態様Z-G3bによれば、基Zが $R^0O-C(O)-N(R^{N'})-$ であり、

式中、 $R^0$ が $H_5C_2-$ 、 $H_3C-(CH_2)_2-$ 、 $(H_3C)_2CH-$ 、 $H_3C-(CH_2)_3-$ 、 $(H_3C)_2CH-CH_2-$ 、 $(H_3C)_3C-$ 、 $H_3CO-(CH_2)_2-$ 、 $(H_3C)_2N-(CH_2)_2-$ 、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、テトラヒドロフラニル、テトラヒドロピラニル、ピロリジニル、及びピペリジニルから選ばれ、

あらゆるシクロブチル基、シクロペンチル基及びシクロヘキシル基が必要により $H_3C-$ 、 $H_3C-O-$ 、及び $(H_3C)_2N-$ から独立に選ばれた1個又は2個の基で置換されていてもよく、かつ

あらゆるピロリジニル基及びピペリジニル基が必要により $H_3C-$ 、 $H_3C-C(O)-$ 、又は $H_3C-S(O)_2-$ で置換されていてもよく、かつ

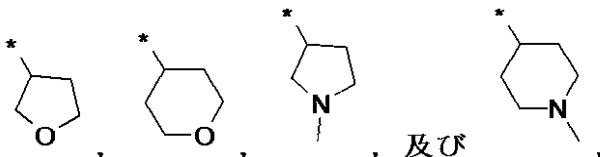
$R^{N'}$ がH、及び $H_3C-$ から選ばれる。

Z-G4a:

実施態様Z-G4aによれば、基Zが $(R^NR^{N'})N-C(O)-O-$ であり、

式中、 $R^N$ 及び $R^{N'}$ が独立にH、 $H_3C-$ 、 $H_5C_2-$ 、 $(H_3C)_2CH-$ 、シクロペンチル、シクロヘキシル、下記の基から選ばれ、

【化8】



## 【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0051

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0051】

本明細書に使用される“医薬上許される塩”は親化合物がその酸塩又は塩基塩をつくることにより変性されている開示された化合物の誘導体を表す。

例えば、本発明の化合物を精製又は単離するのに有益である上記酸以外の酸の塩（例えば、トリフルオロ酢酸塩）がまた本発明の一部を構成する。

ハロゲンという用語は一般にフッ素、塩素、臭素及びヨウ素を表す。

単独の、又は別の基と組み合わせての“ $C_{1-n}$ -アルキル”という用語（nは1からnまでの整数である）は1～n個のC原子を有する非環式、飽和、分枝又は線状の炭化水素基を表す。例えば、用語 $C_{1-5}$ -アルキルは基 $H_3C-$ 、 $H_3C-CH_2-$ 、 $H_3C-CH_2-CH_2-$ 、 $H_3C-CH(CH_3)-$ 、 $H_3C-CH_2-CH_2-CH_2-$ 、 $H_3C-CH_2-CH(CH_3)-$ 、 $H_3C-CH(CH_3)-CH_2-$ 、及び $H_3C-C(CH_3)_2-$ を含む。

単独の、又は別の基と組み合わせての“ $C_{3-n}$ -シクロアルキル”という用語（nは4～nの整数である）は3～n個のC原子を有する環状、飽和、非分枝炭化水素基を表す。その環状基は単環式、二環式、三環式又はスピロ環式、最も好ましくは単環式であってよい。このようなシクロアルキル基の例として、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘプチル、シクロオクチル、シクロノニル、シクロドデシル、ビシクロ[3.2.1.]オクチル、スピロ[4.5]デシル、ノルピニル、ノルボニル、ノ

ルカリル、アダマンチル等が挙げられる。

“複素環”という用語は、特に明記されない限り、N、O又はS(O)<sub>r</sub>（式中、r=0, 1又は2）から選ばれた1個以上のヘテロ原子を含む飽和又は不飽和単環式、二環式、三環式又はスピロ炭素環、好ましくは単環式、二環式又はスピロ環式の環系（これは更にカルボニル基を含んでもよい）を意味する。単独で、又は別の基と組み合わせて、本明細書に使用される“複素環”という用語は、N、O又はS(O)<sub>r</sub>（式中、r=0, 1又は2）から選ばれた1個、2個、3個又は4個のヘテロ原子を含む飽和又は不飽和、更に好ましくは飽和単環式、二環式又はスピロ環式の環系（これは更にカルボニル基を含んでもよい）を意味することが更に好ましい。“複素環”という用語は全ての可能な異性体形態を含むことが意図されている。このような基の例として、アジリジニル、オキシラニル、アゼチジニル、オキセタニル、ピロリジニル、テトラヒドロフラニル、ピペリジニル、テトラヒドロピラニル、アゼパニル、ピペラジニル、モルホリニル、テトラヒドロフラノニル、テトラヒドロピラノニル、ピロリジノニル、ピペリジノニル、ピペラジノニル、モルホリノニルが挙げられる。

こうして、“複素環”という用語は下記の例示の構造を含み、これらは適当な原子価が維持される限り夫々の形態が共有結合によりあらゆる原子に結合されてもよいような基として示されていない。